

## 「J P I C 読み聞かせサポーター実践講座」に参加して

鳥取県立皆生養護学校司書 木椀由里香

平成 29 年 12 月 9 日（土）岡山国際交流センターで開催された「J P I C 読み聞かせサポーター実践講座」に参加しました。この講座は「子どもを対象とした集団での読み聞かせのポイントを楽しく学ぶ」もので、まさに私が今抱えている悩みに直結した内容でした。

午前の特別講演の講師は常々関心があった藤田浩子さんだったので嬉しく、すぐ応募しました。今回も 100 名の定員に 150 名の応募があった人気の講座です。藤田浩子さんの著書は「おはなしおばさん」シリーズ、「おはなしおばさんの小道具」など本校蔵書にもありますが、私自身、図書やグッズを活かしきれていなかったので演じ方を直接学び、読み聞かせに備えたいと思いました。講座は現在 80 歳とは思えない藤田さんの実演あふれる贅沢な 90 分間で、手遊びうたや語り、あやとり、ハンカチ遊びを時間いっぱい参加者として体感しました。手遊びうたでは「手合わせは心を合わせること。」、子どもと向き合う時は「耳はひまで手は忙しく。」という藤田さんの言葉が印象に残り、選書の時に学習効果を考えがちだった思考を柔らかくし、子どもと本とのつなぎ方や司書の役割について見直す良い時間になりました。

午後は、「おはなし会実演」「グループワーク」「紙芝居講座」がありました。「J P I C 読書アドバイザー」の佐藤あけみさんによるおはなし会実演では、「美しい流れを作ることを意識している。」と言われていた通り、次の本への入りがスムーズで自然とおはなしの世界に入ることが出来、テーマ設定と一連の雰囲気作りの大切さを感じました。その後、二会場で行われた「グループワーク」では、冬に読みたい絵本を手に 3 分間で魅力的なポイントを紹介し合った後、各グループの代表者が全体の前で発表しました。参加者の数だけ絵本が集まり、短時間でたくさんの絵本を知る機会になりました。最後の「紙芝居講座」では、紙芝居を海外へも広めておられる中平順子さんによる見事な演じ方にすっかり魅了されました。扉の効果的な開け方・閉め方、紙芝居の抜き方・差し込み方など基本的なことも教わり、紙芝居を積極的に取り入れてみたいと思いました。

この実践講座はおはなし会のプログラムに加えたくなる新しいネタが満載で、県外で同じ志を持つ多くの参加者に会い、選書の幅を広げることができました。日々の司書業務に活かしたいと思います。